

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077900159		
法人名	医療法人 福田病院		
事業所名	グループホーム とまと	ユニット名 さくら	
所在地	福岡県三潁郡大木町大字大角1133-3		
自己評価作成日	平成24年10月1日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年12月5日	評価結果確定日	平成25年1月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各居室に担当職員がいて入居者から要望等を聞きだし外出は担当職員と行い信頼関係の構築を図っている。ケアプランでは本人の希望、家族の要望を取り入れ実践している。
職員においては毎月テーマをかえ勉強会を実施し更なるレベルアップに努めている。
住環境についても入居者の方と一緒に野菜の種まきから収穫、調理に至るまで楽しみを支援している。
地域行事では民生員が主催する生き生きサロン、清掃活動、見守り隊への参加など地域の一員として活動している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

定期的に入居者懇談会が実施されている。議事録には、食事や飲み物、入浴等についての要望が、本人の言葉で残されており、日常の暮らしに反映させている。また、各担当者と個別に行う外出支援では、普段は見れない表情や言葉が表出される機会も多い。これらの取り組みや食事の際の会話、センター方式の活用等から、入居者一人ひとりの方を理解し、本人本位の支援に結び付けていこうとする日常の取り組みがうかがえる。また、経験豊かな職員も多く、働きやすい職場環境作りや職員育成への取り組みを、馴染みの関係性の継続や信頼関係の構築、更なるサービスの向上へと結びつけている。ゆとりある広さが確保された共用空間は、各所に工夫や配慮が行われており、豊かな生活環境を有している。茶話会や見守り隊等の活動を通じて、地域への働きかけも行われており、今後も、福祉拠点としての活動展開が大いに期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果					
自 己	外 部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議で意義の見直しや再確認を行い共有している。毎朝のミーティング時に唱和し意思統一を図り、理念に基づいたケアプランを行っている。	地域密着型サービスとしての独自の理念は、毎日、朝礼後に確認され、共有を図っている。これまでには、職員の意見を取り入れ、理念の再検討を行った経緯もあり、必要に応じて協議を行い、理念の浸透や実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加盟し、入居者の方と一緒に同地区の公民館での行事や清掃活動、見守り隊に参加している。年に1回茶話会を開き地域の方を招いている。	町内会に加入している。回覧板や運営推進会議を通じて情報収集を行い、地域行事やいきいきサロンへの参加を行っている。毎週木曜日には、下校時の「子ども見守り隊」の活動に参加し、お礼の手紙も届けられている。また、事業所からも茶話会やクリスマス会等を案内し、地域との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	公民館での行事に参加し地域の方と交流することで、認知症の行動に対し理解して頂けるように努めている。また平成22年度から茶話会を実施し今回で3回目である。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催し入居者概要・介護度・年齢・活動状況・ヒヤリハット・苦情等の報告を行い、市町村代表や区長、民生委員、家族代表と意見交換を行っている。又、意見を運営に反映させている。	運営推進会議要綱を整備し、2ヶ月に1回、定期開催されている。会議には、家族が持ち回りで参加し、区長、民生委員、行政担当者等の参加を得ている。事業所からの状況報告や地域情報の共有を図り、様々な意見を検討しながら、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には事業所の実情やサービスについての実態を知ってもらっている。個別の事例等は直接、相談・確認を行っている。場合によっては広域連合本部にも相談・確認している。	運営推進会議には、行政担当者の出席を得ている。日頃から、情報共有や不明な点等に関する相談や確認を行い、協力関係を築けるよう努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	必ず年1回は全体会議にて勉強会を行っている。身体拘束マニュアル、手引きも全職員が閲覧できる所に配置している。夜間のみ施錠を実施し、日中は全て開放している。利用者の行動を制限しない環境づくりを行っている。	身体拘束や認知症ケアに関する勉強会を通じて、言葉や対応も含めた抑制について意識を高め、職員の共通認識を図っている。日中の施錠は行っておらず、地域との関係性も築きながら、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修及び内部研修に参加し、全体会議で発表する事で他職員も虐待防止について学んでいる。事業所内での虐待が見過ごされないように入居者の怪我やあざに留意し、原因究明を図っている。		

福岡県 グループホーム とまと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修及び内部研修に参加し、全体会議で発表する事で他職員も権利擁護について学んでいる。必要性を求めてきた家族には、介護支援専門員による説明を行う体制を取っている。	権利擁護に関する制度について、資料の整備や入居時の説明に努めている。成年後見制度や日常生活自立支援事業について、これまでに必要性を検討した事例もあり、研修等にて理解や知識を深めながら、活用に向けた支援が行えるよう体制作りにも努めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や料金改定時には十分な時間を確保し説明を行い、理解・納得していただき同意を得ている。疑問、質問等は随時受け付けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	2ヶ月に1回開催する運営推進会議にて、幅広い意見が聞けるよう毎回違った入居者ご家族に参加依頼、協力を得ている。又、入居者懇談会・家族会を開催し、入居者や家族の要望も取り入れている。	年に2回程、入居者懇談会を開催している。議事録には発言がそのまま記録され、嗜好品の摂取や飲み物の選択等、実際に日々の暮らしに反映されている。また、夏祭りやクリスマス会等の行事の前に、年2回、家族会も開催されており、運営推進会議には持ち回りで家族の参加を得る等、積極的な取り組みがある。毎月の個別通信の発行や、介護記録の開示も行われており、情報共有や意見の収集、運営への反映に力を入れている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の個人面談を行い、意見を引き出す場を設けている。毎月1回業務ミーティング時に職員の意見・要望を提案する機会があり、運営に反映している。	毎月、職員全員参加を基本とするミーティングが開催されている。日常的にも、副主任を中心として職員意見を吸い上げ、検討を行い、運営への反映に努めている。年2回、個人面談の機会も設けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回人事考課を行い、個人面談を行っている。又、フィードバック面接を行い、要望を聴取している。外部研修にも積極的に参加できるよう勤務調整を図っている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集・採用時は制限を設けず、人柄や働く意欲のある人を重視している。また、幅広い年齢層の職員を採用している。研修や資格取得のためのバックアップ体制を取り、社会参加や自己実現の機会が得られるようにしている。	職員の採用にあたっては、年齢や性別、経験等による制限は設けず、3ヶ月の試用期間のち、正職員としての採用を基本としている。現在、20代から70代までの職員が勤務しており、資格手当の支給や研修参加に向けたサポート、人事考課を実施する等、スキルアップや能力開発、モチベーションの確保に取り組み、働きやすい職場環境の整備に取り組んでいる。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	入居者の尊厳を尊重することを理念に掲げ、職員は町で開催される人権及び啓発活動の研修に参加している。研修内容は全職員共有できるよう、報告の場を設けている。	様々な視点から勉強会を実施し、入居者の尊厳や権利擁護について、意識を高めている。また、理念の共有に向けた働きかけや、入居者懇談会の実施等からも、本人本位の暮らしの実現へ向けた事業所の姿勢がうかがえる。	

福岡県 グループホーム とまと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の情報を共有すると共に研修への参加を呼びかけている。又、全体会議にて研修報告の場を設けている。自己啓発のため資格取得を志す職員に対しては、勤務日程等の配慮を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の特別養護老人ホームやグループホームの慰問に参加している。又、入居者と相互訪問し交流を図ることでサービスの質を向上させる取り組みをしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時本人より希望や要望を時間をかけて聞くよう努めている。又、新しい希望や要望が見つかった場合には家族を含め検討し、解決を図り、安心する事で信頼関係の構築を図っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	パンフレットの配布や見学をしてもらい、雰囲気を感じてもらっている。相談時や面接時に家族の意向を確認している。入居後しばらくは要望等に対しての報告を随時行い、家族との関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居希望や見学時に本人や家族の希望を踏まえ、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応・説明を行っている。満床ですぐに入居できない場合必要に応じ近隣の介護保険施設の紹介を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	月1回入居者主体の漬物作りを行ったり、生活歴に応じて園芸や野菜の収穫、野菜そろえや調理など職員と一緒に作業を行っている。日常的に共に過ごし支えあう関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には記録を開示し、日々の様子を伝えている。年に2回家族も参加して頂く催し(夏祭り・クリスマス会)を開催し、入居者と過ごして頂く事により、共に本人を支える機会を作っている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前より通われている食事処や美容室へ出掛け、馴染みの人との関係継続の支援に努めている。入居者の友人が訪問される事もあり、馴染みの人との関係継続ができています。	理念の一つとして、馴染みの暮らしの継続を掲げている。家族との連携も活かしながら、冠婚葬祭への出席、他地域の病院や介護施設への面会、お墓参りや神社への参拝、魚釣りやペットショップへの外出、職歴等に応じた役割や関係性の継続等、これまでの暮らしや馴染みの関係の継続に向けた積極的な支援が行われている。	

福岡県 グループホーム とまと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の些細なトラブル等もミーティングにて共有し関係を把握する事でテーブル席の配置を考慮している。又、レクリエーションに声掛け参加を促し、孤立しないよう支援を行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や施設入所で契約が終了しても、時折お見舞いや面会を行っている。入居者も同行し面会する事もある。又、再入所希望がある場合は可能な限り受け入れ態勢を取っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中で想いや希望を聞き出している。入居者一人ひとりに担当職員がおり、普段言えない意向まで把握する事ができている。困難な方はアセスメントより本人本位に近づく努力を行っている。	各担当職員により、センター方式も活用しながら情報収集が行われており、年1回、見直しが行われている。日々のケアプラン実施記録が詳細に記載されており、発言や心情の変化がわかりやすい。これらの情報を職員が共有し、カンファレンス等にて本人本位の検討を行い、思いや意向の把握や、実現に向けた取り組みに結び付けている。年2回ほど、入居者懇談会が開催されている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や関係者より生活歴や環境、サービス利用の経過等を聞き、把握できている。必要に応じて、入居前施設に出向き経過を聞いている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとり24時間の過ごし方が一目で分かる生活日誌があり、毎日のバイタルチェックや過ごし方、状態変化等を記載している。又、朝夕の申し送りにて把握している。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者、家族、職員の意見を反映した介護計画を作成している。各入居者に担当職員がおり月に一度モニタリングを行い、6ヶ月に一回又は状態の変化に応じ介護計画を見直している。	日々のケアプラン実施記録が詳細に記載され、カンファレンスや3ヶ月毎のモニタリング・評価を通じて、現状の確認や見直しの必要性について検討を行っている。	
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の生活日誌に日々の様子やケアの実践・結果、気づきを記入し、情報を共有している。又、対応方法の変更の場合には、職員が数日間試した事に対して記録を残し、それを基にカンファレンスを行っている。		

福岡県 グループホーム とまと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	喫煙や飲酒などの制限をすることなく、入居者、家族の要望に答えている。個別の外出支援の際には家族と一緒に行く場合もある。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	無断外出時の捜索の協力を所轄の交番やタクシー会社に依頼している。公民館での行事・活動・見守り隊への参加を行い、地域の方と一緒に活動を行っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の病院以外でも受診を行っており、看護師が直接担当医へ連絡し指示を仰ぐ事のできる関係である。毎週木曜日に担当医師の往診があり緊急な場合の対応もできている。	入居時に、かかりつけ医について確認している。週1回の往診体制の確立や、希望する医療機関への受診を支援し、受診結果については、家族や職員との情報共有を徹底している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と24時間連絡が取れる体制であり、夜間の急変時も指示を仰ぐ事ができる。介護職員が気付いた状態変化はすぐに看護師に報告し、適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院受診付き添いの際病室に立ち寄り、状態把握に努めている。地域連携在宅支援委員会で情報交換ができ、必要時相談できる関係である。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に入居者家族に看取りについての説明を行い同意を得ている。入居後も主治医と相談しながら看護師より説明し意向を確認している。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について説明を行い、同意を得ている。状況の変化に伴い、家族や医療関係者との話し合いを重ね、方針の共有に努めている。家族会の中で、重度化や住み換えの基準について、意見交換が行われている。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応について定期的に外部研修を受け、その都度全体会議にて全職員学んでいる。緊急時の対応マニュアル等、目の届くところに配置している。		

福岡県 グループホーム とまと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署指導による避難訓練を年2回行っている。近隣の方にも緊急時の避難誘導を依頼しており、顔と誘導方法が解るように情報を記入したプレートを入居者に掲示している。	消防署の指導のもと、年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施しており、入居者、区長、民生委員の参加、協力を得ている。防火シャッターや放水設備(15m)も設けられており、各居室の名前プレートの裏には、個別の避難方法等が示されている。隣接する関係施設との連携体制づくりにも取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	失礼の無い態度で接している。必要に応じミーティングや全体会議にて声掛け等について検討している。H24年8月に接遇の勉強会実施。	接遇や尊厳について勉強会を実施し、誇りやプライバシーを損ねることの無い様、言葉かけや対応について意識を高めている。個別の時間の流れや居場所、馴染みの関係性についても大切にとらえ、支援を行っている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の方に情報を伝え自己決定がしやすいような働きかけを行い支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者主体での援助を心がけ入居者のペースで生活してもらっている。全体会議の場で入居者を第一に考えるように伝えている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本2ヶ月に1回外部より理容訪問を受けている。入居者より化粧、髪染めの希望があれば職員にて行っている。家族、本人より希望がある場合は馴染みの理容、美容室へ行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員、入居者と一緒になって料理を行っている。苦手なものがあれば材料を変え、好みに合わせている。入居者に食材切り、食器洗い、食器拭きなどそれぞれ役割を担って実施している。	調理担当職員が配置され、個人の嗜好や状態等を把握しながら、細やかな支援が行われている。毎日のスーパーでの買い物から調理準備、後片付け等、個人に応じた役割を担っていただいている。職員もともに食卓を囲み、個々のペースを尊重しながら会話を楽しみ、賑やかな食事風景があった。また、食後もゆっくりと余韻を味わっている。希望に応じた外食の支援も行われている。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事量、水分量は記録している。献立によってはキザミ食等必要に応じて提供している。また好みのものが摂取できるように家族の協力も得ている。		

福岡県 グループホーム とまと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけが必要な入居者にはその都度確認し一人ひとりにあった口腔ケアを支援している。義歯洗浄も行い清潔保持に努めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックにて排泄パターンを把握し、声かけ・誘導を行っている。入居者の行動パターンを把握しパット使用量の減量に努めている。	現状として、自立されている方が多い。排泄チェックを実施し、カンファレンス等にて個別のパターンを検討し、排泄用品の検討や失禁を減らしていくための支援法について協議が行われ、排泄の自立支援や排泄用品の節約にもつなげている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェックにて確認し、牛乳や繊維物を取り入れたり、運動や腹部マッサージにて自然排便を促している。看護師よりミーティング全体会議で便秘の原因や予防について勉強の機会を設けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	より家庭に近いリズムで生活してもらっている為、午前と午後にかけている。入居者に意思確認し入居者の意向に合わせている。浴室の窓からは庭を眺めることができ木々を楽しめる環境にある。	毎日、入浴準備を行い、希望や体調、状況に応じた、柔軟な対応に努めている。浴室の外には坪庭が設けられ、眺めを楽しみながら、ゆっくりと入浴を楽しむことができる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	照明、室温、衣類などの調節に気を配り、自宅で使い慣れた寝具類を持参して頂き、安眠を確保している。入眠時間や起床時間は本人のペースに合わせており、本人の生活パターンにあわせた援助を行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服の効能・効果、注意事項等が記された用紙を個人記録に綴っておりいつでも確認できている。内服の変更、副作用については看護師より説明、又は申し送りにて伝達している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生花をされていた入居者には教え子さんと一緒に生花を行っている。保育園の先生をされていた入居者には歌や装飾等を一緒に行っている。個人に応じた機能を発揮できるよう支援している。		

福岡県 グループホーム とまと

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別での外食、買い物、市外の神社へ参拝に出掛けたりしている。季節毎に花見等も行っている。馴染みのある美容室への外出も家族の協力を頂き連れて行ってもらっている。	毎月、1回以上、季節に応じた外出レクリエーションが企画されている。家族との連携を活かしながら、個別の外出支援も行われており、自宅や神社への参拝、ラーメン店、冠婚葬祭への出席や他地域の病院や施設への面会等を支援している。日常的にも、日々の食材の買出しや周辺の散策に出かけている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる入居者には、家族の了承の下、自分で所持されており、買い物・外食時は自分で支払いをされている。金庫で預かっている入居者の方でも希望時には必要に応じ渡している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族が遠方に住んであり頻りに面会できない入居者には、TELにて会話を楽しんでもらっている。毎月1回は手紙や、生活の様子を写真を添えて送っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの湿度・温度を定期的にチェックし管理している。季節の花をホールに飾ったり季節に応じた装飾を行い季節を感じられるようにしている。日めくりカレンダーも設置している。テレビの音量も入居者の希望に応じて調整している。	ゆとりある広さの共用空間は特徴的でもあり、開放的なリビング兼食堂を中心として、各ユニットの居室が回廊式で配置されている。テレビの前や庭を眺めることができる場所、廊下等、各所にソファが配置され、その時々に応じた寛ぎの場所が確保されている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った入居者同士が談話したりテレビを見たり自由にできるようにしている。中庭には椅子を置き日光浴もできるなど仲良く過ごせる場を提供している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時に馴染みのある家具、寝具等の持参をお願いしている。希望に応じテレビ、仏具なども持ち込んでもらっている。	洗面台が設置されている各居室には、筆筒や仏壇、テレビ、ソファ等、大切なものや馴染みの物が持ち込まれており、居心地良く、安心して過ごせるよう配慮されている。居室入口の名前プレートの裏面には、個別の状態に応じた避難方法が示されている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物はバリアフリーで段差がなく手すりやスロープが設置されている。各居室には名札や写真を飾り分かりやすいようにしている。可能な限り自力での移動、動作を支援している。		